

小学校高学年における教科担任制の充実

中核校	帯広市立広陽小学校	指定校	帯広市立啓西小学校、帯広市立西陵中学校
-----	-----------	-----	---------------------

実践前の状況

- ・加配教員に、専科教員としての指導経験がないため、専科指導に係る年間指導計画等の見通しや専門性に課題が見られた。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響から、子ども同士の学び合いを制限せざるを得ない状況であった。

実践の概要

理科の特質に応じた学習過程の確立

- ・「自然事象への気付き」「課題の設定」「予想や仮説の設定」「検証計画の立案」等、理科の特質に応じた学習過程を児童と共有できるよう、単元の学習計画を児童と作成する等、工夫した。
- ・教科に関する専門性を高めるため、年度当初、週当たりの授業時数を各校で調整し、教材研究の時間を確保するよう努めた。
 - 1人1台端末を活用した探究的な学びの充実
- ・計画的に1人1台端末活用による考えの共有場面を位置付け、コロナ禍で話し合いなどの経験が少なかった児童の学び合いを促すよう努めた。
- ・1人1台端末の利点を活かし、児童がこれまでの学びを蓄積したスタディ・ログを活用しながら、学習を深められるよう配慮した。

実践の充実に向けた取組の工夫

〔専科教員の取組〕

- ・教科の特質に応じた学習過程の確立とICT活用について、文部科学省のStuDX-Style等を参考に、「発見 追求 課題解決」の学習過程において働かせる資質・能力や情報活用能力等を意識した指導に努めた。

〔主幹教諭・教務主任の取組〕

- ・専科教員の教科指導の専門性の向上に向け、教材研究の時間を確保することができるよう、年間指導計画を見据えた時数調整を行った。

〔学年団の取組〕

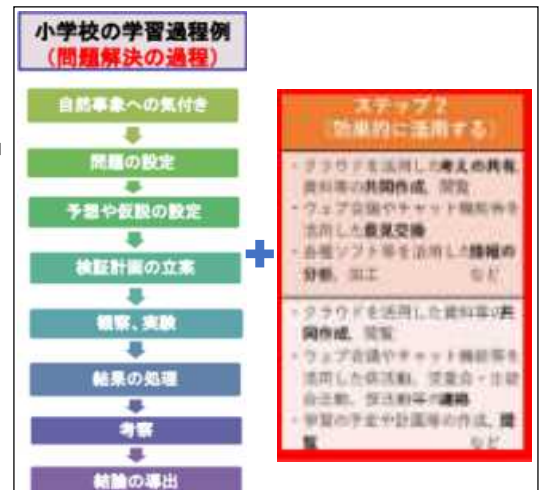
- ・専科教員による指導が充実するよう専科教員と各学級担任との生徒指導上の情報や学習ルール及び学習スタイルの共通理解を図り、どの学級においても同じベクトルで教科指導にあたるよう配慮した。

成果（ ）と今後の課題（ ）

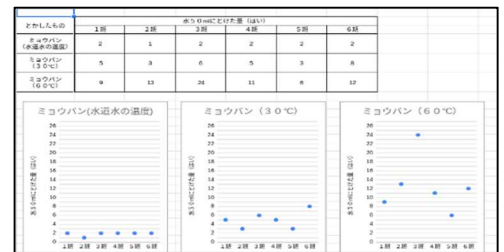
教科の特性に応じた学習過程について、児童と共通理解を図ったことにより、児童が見通しをもち、主体的に学習に臨む姿が見られるようになった。また、1人1台端末の活用を通じた協働的な学びの充実により、児童の学習意欲の高まりを感じることができた。

〔児童アンケート「進んで学習に取り組んでいる」(R4: 93.7% R5: 94.4%)〕

1人1台端末のより効果的な活用場面について、児童が探究の学習過程において、自己選択・自己決定していけるような授業展開を構築していく必要がある。



【学習過程のイメージとICT端末等の活用】



【共同編集機能を活用した実験結果の考察】